



幼児期の子どもは、映像メディアをどのように理解しているか？

技術分野分類 社会科学 心理学 4102 教育心理学

技術キーワード 幼児教育・保育、認知・記憶・教育、発達

産業分類 O-82：その他の教育、学習支援業

内 容	概要	21世紀に入り、様々な映像メディアが生み出され、進化を続けています。映像の質の向上はもちろんのこと、VRなどの新たな技術が開発され、私たちはあたかも映像の中に入り込んでいるような体験をすることが可能になりました。また、スマートフォンをはじめとするタブレット端末の登場によって、あらゆる映像や情報を手軽に持ち歩くができるようになりました。私たちはどこにいても、現実世界にヴァーチャルな世界を持ち込むことができるようになったのです。例えば、現実世界にポケモンを映し出すポケモンGOは大きな話題となりました。ヴァーチャルとリアルの境界線は、今後ますます曖昧になっていくと予想されます。
	従来技術・競合技術との比較（優位性）	一方、子どもたちの世界では何が起きているでしょうか。子どもたちも非常に幼い頃から、実際に様々な映像にさらされています。最近、私が非常に心配したものに、アプリを使って楽しむ恐竜図鑑があります。そのアプリはタブレット端末の中に、現実世界と恐竜の3D動画を同時に映し出すことができます。まるで自分の部屋に恐竜がいるかのように感じられます。
	本技術の有用性	では、子どもたちはこのような映像をどのように理解しているのでしょうか。大人はどのような映像であれ、それが単なる映像と認識しながら楽しんでいます。しかし子どもはそうではありません。私たちの初期の研究では、子どもが写真や動画映像を実物と完全に異なるものとして認識するようになるには、これまで考えられていたよりずっと時間がかかることを、実験によって明らかにしました（木村・加藤 2006 など。図O1,O2 参照）。さらに、上記のようにより進化した映像メディアが子どもたちの生活に浸透すれば、子どもの認識の発達は、かつてとは違う様相を見せるようになると考えられます。このことが、子どもにとって有益なのか否かは、検討すべき喫緊の重要課題となるでしょう。以上を踏まえて、今後は新しく開発された様々な映像メディアを使用して、子どもの映像理解の発達について、さらに研究を進めていきたいと考えています。
関連情報 (図・表・写真等)		<p>映像の表象性理解の発達 ビデオ映像を介した他人の心的理解</p> <p>映像世界と現実世界とのインターラクションの可能性について、幼児の認識がどのように発達していくかを調べた。その結果、5、6歳児でも映像を実物の対象のように扱う実在視的反応が見られ、映像世界と現実世界が繋がっているような理解を示す子どもが半数にのぼった。とくに人の映像に対して、そのような反応が多く見られた。</p> <p>効果は、映像に映し出されている人物が、現実世界を知覚できるかと考へているか否かを調べた。その結果、35%の5歳児が映像の人物は現実世界を知覚でき、その知識は映像の元になっている実在の人物にトランスファーすると考えていることがわかった。</p>
適用可能製品		
技術 シーズ 保有者	氏名 所属・役職	木村 美奈子 准教授 名城大学 教職センター
技術 シーズ 照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	名城大学 学術研究支援センター TEL 052-838-2036 FAX 052-833-7200 sangaku@ccml.meijo-u.ac.jp

■知的財産

■試作品状況

無

提示可

提供可

作成日 2023年 2月 10日